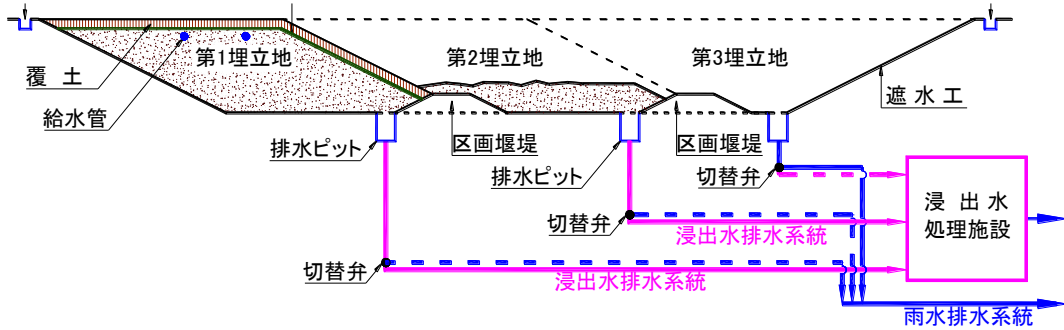


# セミオープンタイプ管理型処分場システム キャッピングシステム最終処分場

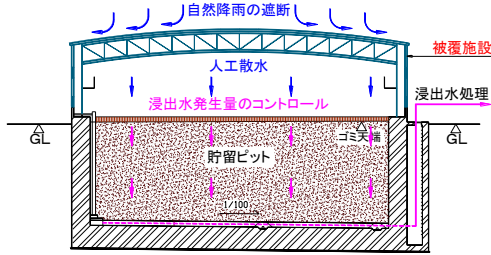
本システムは、通気防水シート等のキャッピングを順次行なうことで浸出水処理量を低減できる、建設費と維持管理費に優れたセミ・オープン型最終処分場です(特許出願中)。

## システム概要

- 1 工事中及びごみ埋立前は、全ての排水系統を雨水排水系統とします(第1~3埋立地)。
- 2 ごみ埋立を行なう区画から順次、排水系統を浸出水排水系統へ切替えます(第2埋立地)。
- 3 埋立が終了した時点で、通気防水シートを敷設し、覆土を行ないます(第1埋立地)。  
通気防水シート敷設前は自然降雨による洗出しが行なわれ、必要に応じてシート敷設後に下部に設置した給水管により給水ができます。
- 4 埋立終了時には全ての排水系統が浸出水処理排水系統となります。

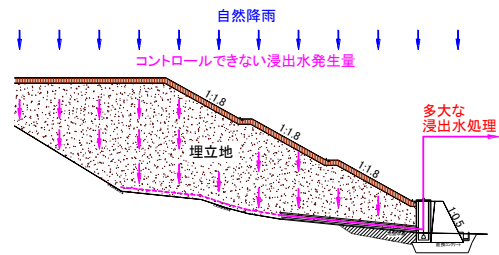


## キャッピングシステム処分場の特徴



— クローズド型 —

自然降雨を遮断し人工散水することで浸出水発生量をコントロールできますが、建屋が必要なため、建設費が高いことが課題です。



— オープン型 —

建屋がないため建設費を抑えることができますが、自然降雨が浸透するため浸出水発生量が増え、維持管理費が高くなります。



■本システムは、クローズド型とオープン型の長所を活かし、建設費と維持管理費を軽減できる最終処分場です。

- ①被覆施設を必要としない雨水排除システムのため建屋建設費が不要です。
- ②自然降雨の遮断、適量の給水により、浸出水発生を低減・管理でき、浸出水処理に係わる維持管理費を軽減できます。
- ③埋立物への洗い出しが必要な場合、雨水・処理水の人工的給水が可能です。
- ④通気防水シートによるキャッピングにより埋立地を好気性に保ち、微生物分解を促進します。
- ⑤通気防水シートによるキャッピングにより埋立地を乾燥化し、減容化(圧密沈下)する効果があります。

